

Company [Career Management GmbH]

Address [Tower 185, Friedrich-Ebert-Anlage 35 – 37, 60327 Frankfurt]

Website [<https://career-management.de>]

ドイツ転職市場レポート（2020）



目次

会社概要	4
会社沿革	4
拠点一覧	4
アンケート調査の概要	5
アンケートの対象	5
アンケート調査期間	5
アンケート方法	5
サンプル数	5
アンケート調査結果	6
応募者の基本情報	6
男女比	6
転職時の年齢	6
応募者の学歴	7
最終学歴	7
大学を卒業した国	7
前職	8
前職の勤務年	8
前職及びドイツ転職後の業界	8
前職及びドイツ転職後の職種	9
前職での使用言語	9
言語レベル	10
転職時のドイツ語・英語レベル	10

転職活動について	11
ドイツ転職時に優先した項目	11
ドイツ転職時に苦勞した点	11
ドイツを選んだ理由	12
転職後の環境変化	13
有給の増加（ドイツ転職後）	13
給料の増減（ドイツ転職後）	13
ドイツ転職後の仕事のやりがい	14
海外経験	15
ドイツ転職前にドイツに滞在した経験の有無	15
ドイツ転職前にドイツ以外の国に長期滞在した経験の有無	15
海外長期滞在経験の有無	16
日系企業とドイツ企業の比較	17
日系企業で働くことのメリット	17
ドイツ企業で働くことのメリット	17

会社概要

会社沿革

Career Management は、「国際的な環境で活躍する人材と在欧日系企業の懸け橋になりたい」という信念を基に、1999年に在欧日系企業向けのリクルート会社として設立されました。

私たちは、幅広い職種の人材斡旋や産休代理などの期間が限定された人材派遣サービスなど、在欧日系企業 500 社以上との取引実績があります。

拠点一覧

- Frankfurt 本社 (Tower 185, Friedrich-Ebert-Anlage 35 – 37, 60327 Frankfurt)
- Düsseldorf 事務所 (Dreischeibenhaus, 40211 Düsseldorf)
- München 事務所 (Maximilianstr. 13, 80539 München)
- Hamburg 事務所 (Neuer Wall 50, 20354 Hamburg)
- Stuttgart 事務所 (Rotebühlplatz 23, 70178 Stuttgart)
- 神戸事務所 (兵庫県神戸市中央区江戸町 85-1 ベイウイング神戸ビル 10F)

アンケート調査の概要

アンケートの対象

2019年に Career Management を通じて、前職が日本で、ドイツでの就職・転職に成功した日本人。

アンケート調査期間

2020年4月1日～2020年4月8日

アンケート方法

メール

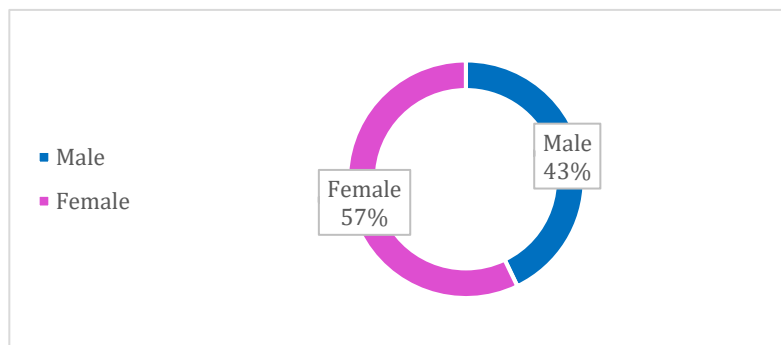
サンプル数

42

アンケート調査結果

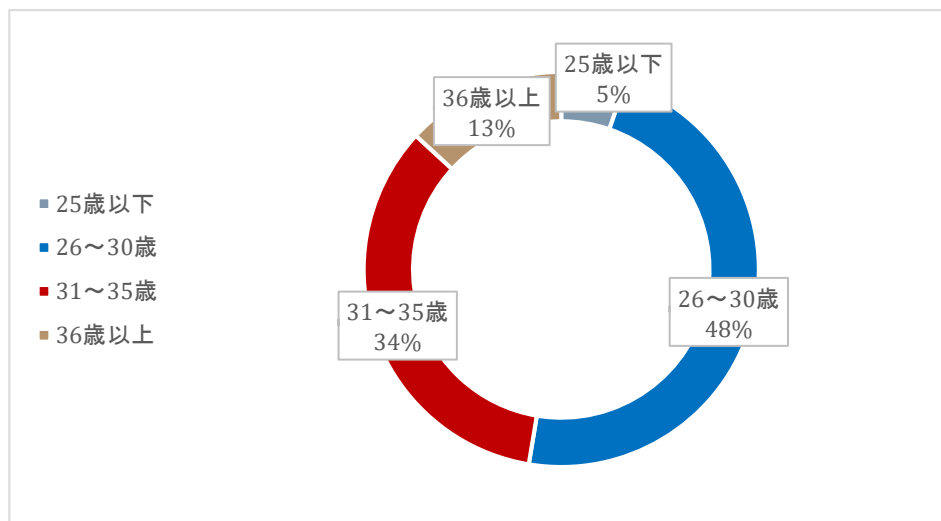
応募者の基本情報

男女比



ドイツで転職・就職活動を行う日本人の応募者のうち、男性の割合は43%、女性の割合は57%と、比較的女性の割合が高いことがうかがえる。この統計結果には、アシスタント職を含む。

転職時の年齢

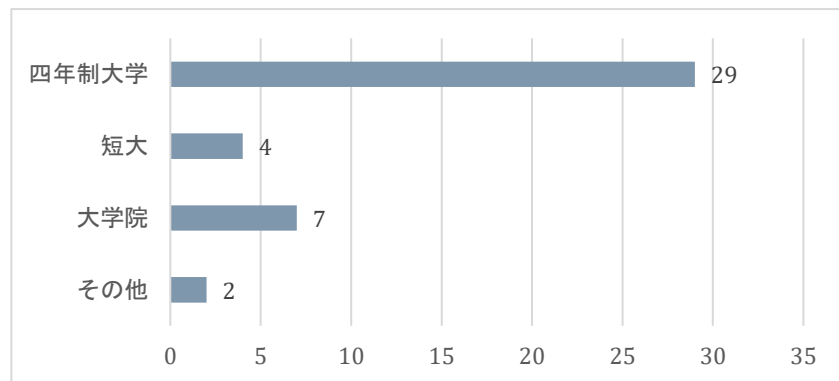


転職時の応募者の平均年齢は30.7歳である。

年齢層的には26歳～30歳までの年代の割合が最も高く、全体の48%を占める。次いで、31歳～35歳までの層が34%。25歳以下の層に関しては全体の割合が最も少なく、基本的にドイツ就職・転職者は日本で数年、キャリアを積んだものがメジャーであることを示している。

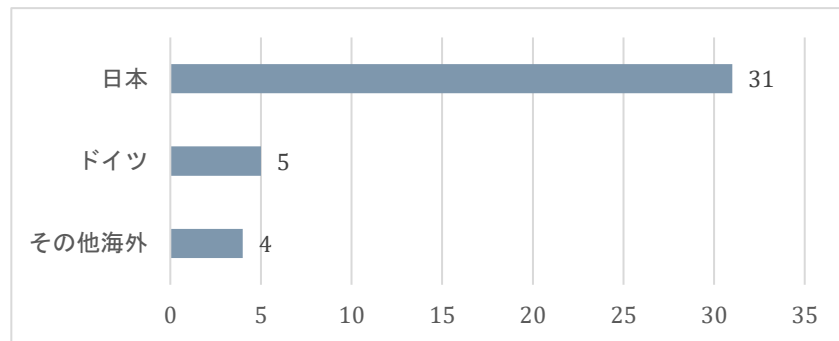
応募者の学歴

最終学歴



全体の **85.6%**は、四年制大学または大学院卒業の経歴を持つ。

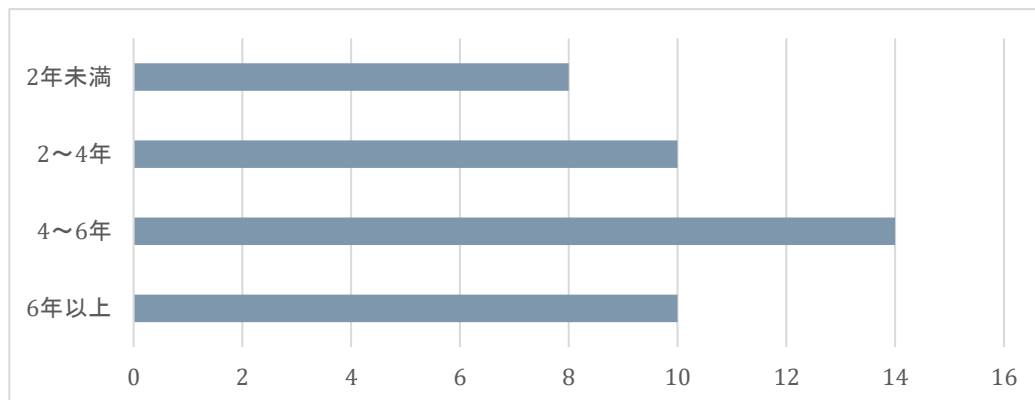
大学を卒業した国



全体の **77.5%**にあたる応募者は、日本の大学卒である。ドイツの大学・大学院を卒業したという割合は全体の 12.5%にとどまり、その他海外の大学・大学院を卒業したというケースも少数ながら存在する（イタリア、チェコ、アメリカ等）。

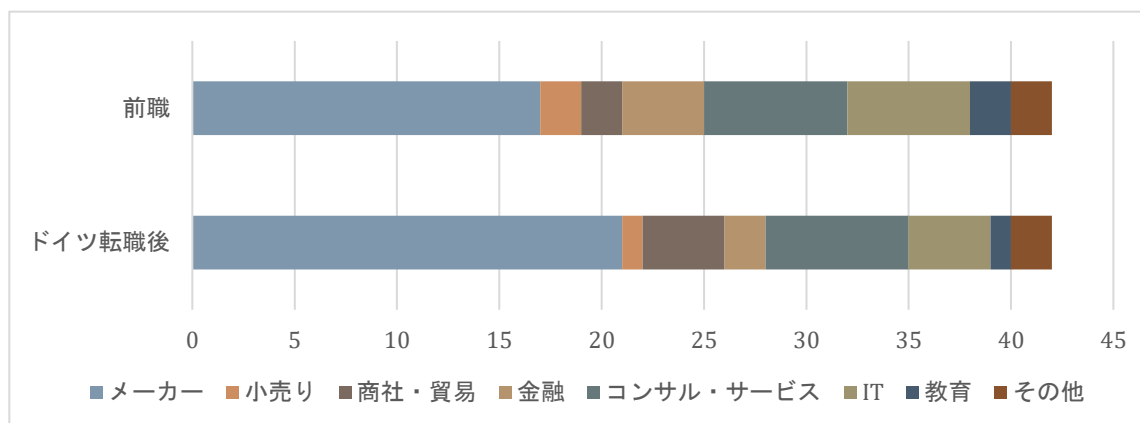
前職

前職の勤務年



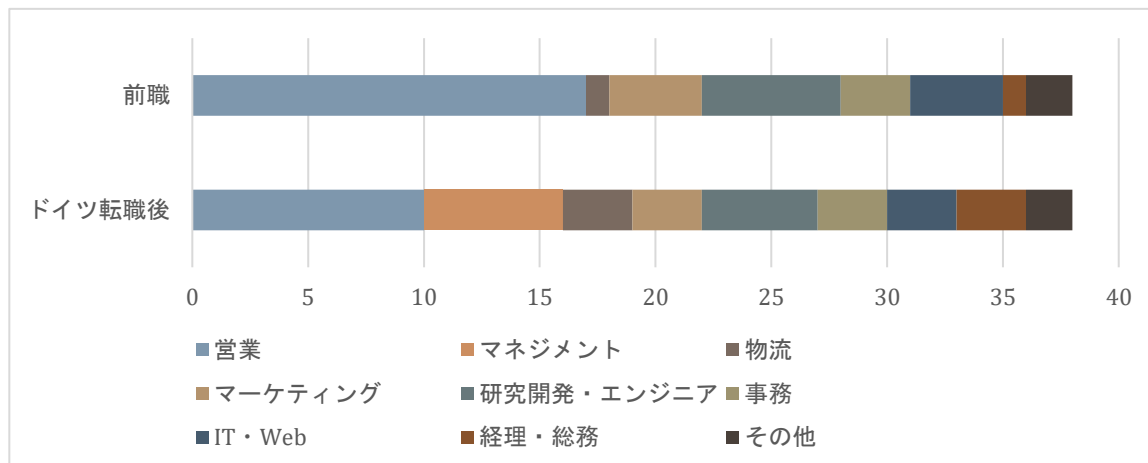
前職における平均勤続年数は **3.8 年** である。最多は 4~6 年の勤務年であり、全体の 8 割以上が、日本で 2 年以上のキャリアを積んでからドイツで転職を行っている。

前職及びドイツ転職後の業界



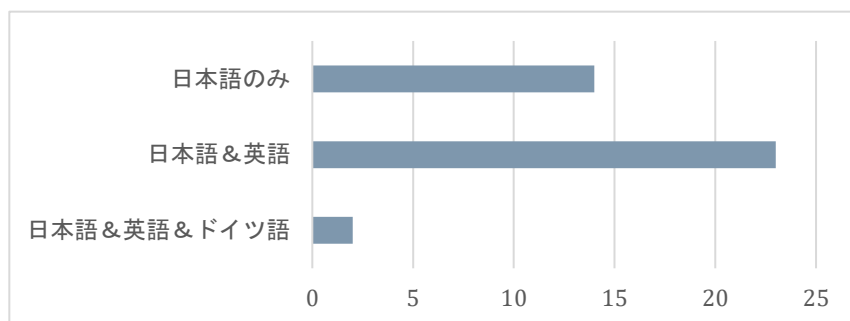
ドイツ転職前に所属していた業界で最も多かったのが **メーカー・製造** である。ドイツ転職後は、さらにこの割合が増え、全体の 50% に及ぶ応募者が、ドイツにおけるメーカー・製造業に携わる形となっている。

前職及びドイツ転職後の職種



ドイツ転職前に最も多い職種は「営業」であり、ドイツ転職者の全体の46%は、元営業からの転身である。ドイツ転職後における「営業」ポジションの割合は、全体の37%まで低下し、代わりに、ドイツ人と日本人の間を折衝する「マネジメント部門」「総務部門」などの数字が増加する。

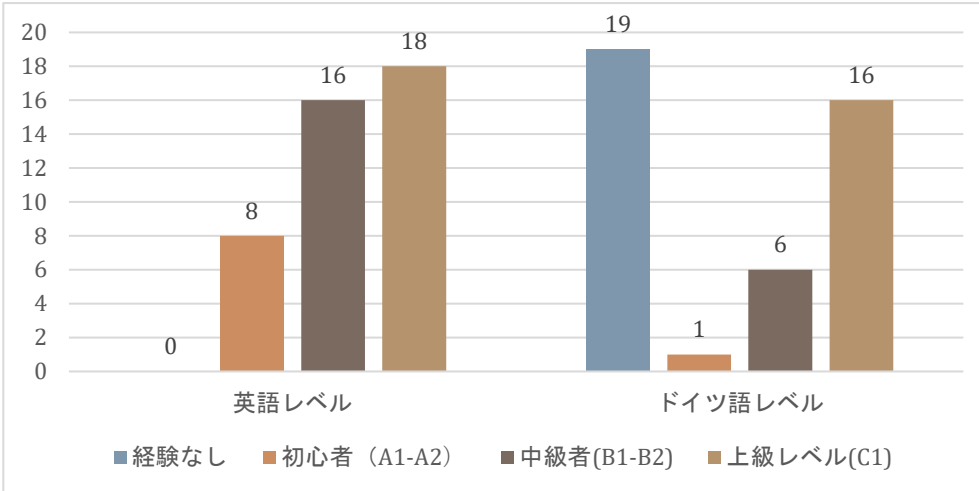
前職での使用言語



ドイツ転職前の、前職での使用言語の最多は「日本語&英語」を用いていたというケースで、全体の過半数を占める。

言語レベル

転職時のドイツ語・英語レベル



就職成功者全体のうち、**43%**は**英語が上級レベル**、**36%**が**ドイツ語の上級レベル**に達していた。一方で、**応募者の45%**は**ドイツ語未経験**または初心者レベルであり、仕事でもドイツ語語を使用しないポジションについている。

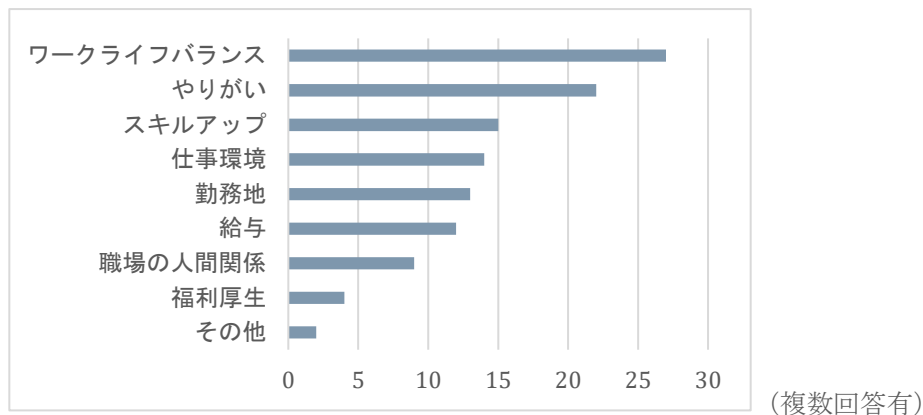
この中で、英語、ドイツ語ともに上級レベル（C1以上）に達している応募者の数は6であり、全体のわずか14.2%に過ぎない。

この中で、英語、ドイツ語ともにビジネスレベルに満たない（B1以下）応募者の数は4であり、全体の9.5%に過ぎなかった。

このことは、**9割以上の応募者**が、ドイツ語、または英語のいずれかの言語を**ビジネスレベル**で使いこなせることをしめしている。

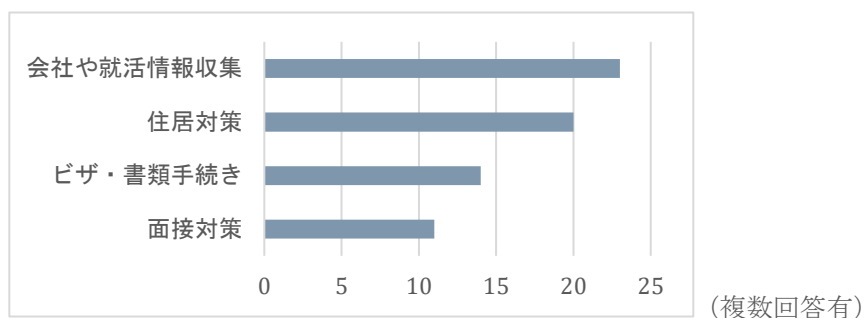
転職活動について

ドイツ転職時に優先した項目



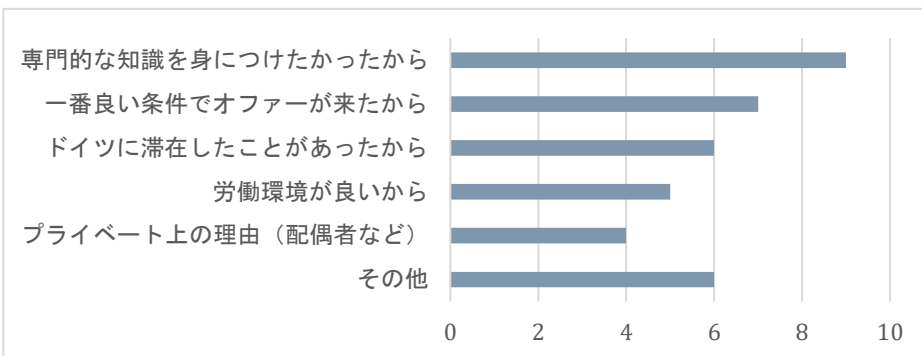
応募者の **64.3%**が、ドイツ転職時に**ワークライフバランス**を重視している。ドイツのワークライフバランスは世界でもトップクラスであり、このように、給与面などよりも、私生活との両立、やりがい、スキルアップなど、生活の質の向上を求めてドイツで転職する例が多い。

ドイツ転職時に苦労した点



ドイツ転職者の半数以上が、会社・就活情報の収集面で困難を覚えている。面接での受け答えよりも**『情報収集』『住居対策』『ビザ手続き』**といった、実務的な部分で困難を覚える応募者の数が多い。

ドイツを選んだ理由



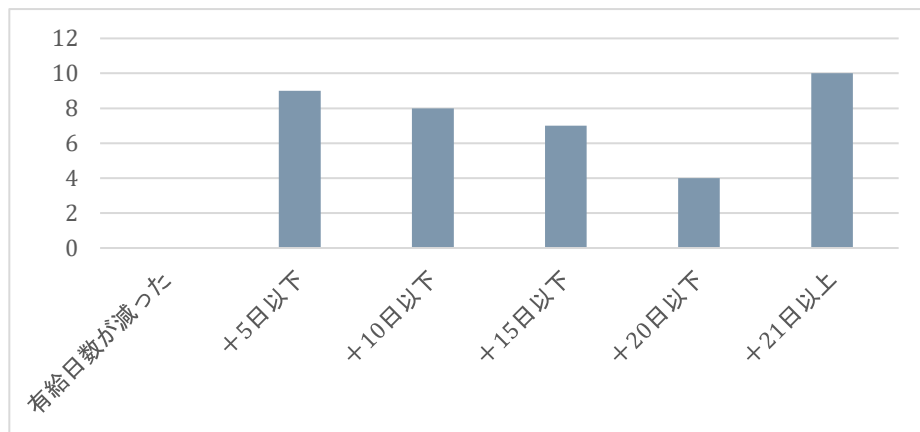
海外就職の中で特にドイツを選んだ理由が多かった理由が『**専門知識**』を身につけたかったから、という声である。この中には『英語以外の言語を身につけたかった』という声も含まれる。

また、特にドイツに特定はしていなかったものの、海外での就職を志して就職活動を始めてみて、最終的に最も良い条件でオファーをもらえたのがドイツだった、というケースがその次の『**一番良い条件でオファーが来た**』に当てはまる。

このように、元々ドイツに絞っていたわけではないが、給与、住みやすさなどを考慮し、最終的にドイツに落ち着いた、という応募者の数が多い。

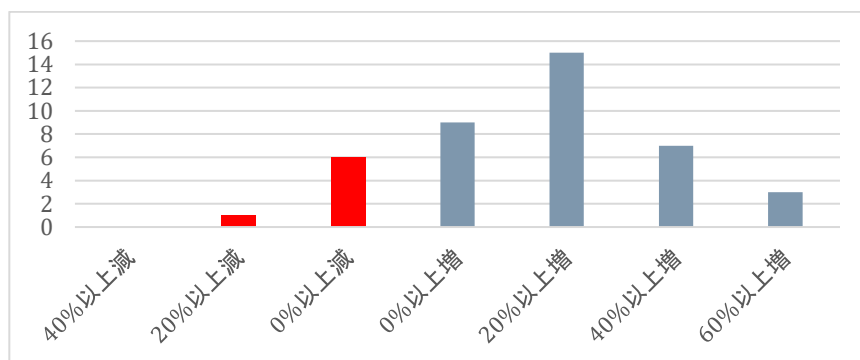
転職後の環境変化

有給の増加（ドイツ転職後）



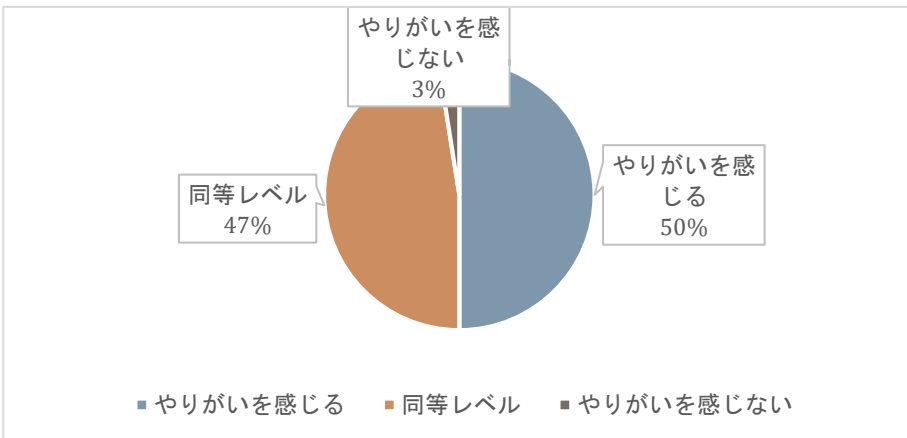
日本からドイツ転職後に増加した有給日数は平均して年間**+13.29日**である。転職後に有給の日数が年間15日以上増えた人の割合は全体の半分で、50%にあたり、逆にドイツ転職後に有給日数が減った人は一人もいなかった。

給料の増減（ドイツ転職後）



日本からドイツ転職後に増加した給料の平均値は**+21.1%**である。全体の**17.1%**は、日本からドイツへの転職後に**給料減**を経験している。対して、全体の応募者の**82.9%**が**給料増**を経験しており、全体の傾向としては転職後の給料水準は高くなっている。

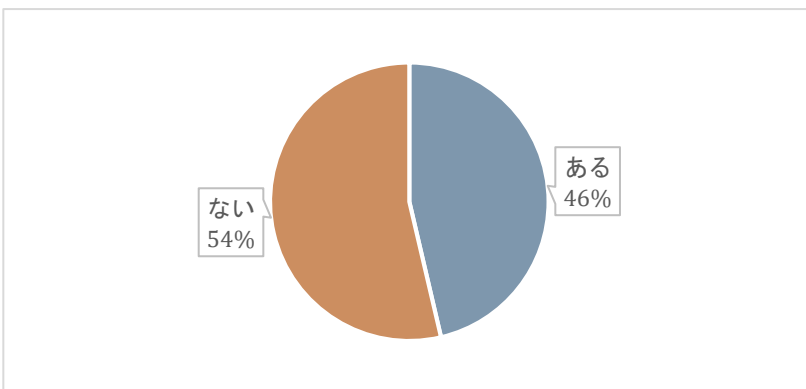
ドイツ転職後の仕事のやりがい



前職と比較した際、ドイツ転職後のやりがいを前職以上だと回答した人の数は**全体の 50%**に及ぶ。一方で、前職以下だと感じた人の割合は**全体の 2.5%**にとどまり、大多数が同等または同等以上のやりがいを転職後に見出していると言える。

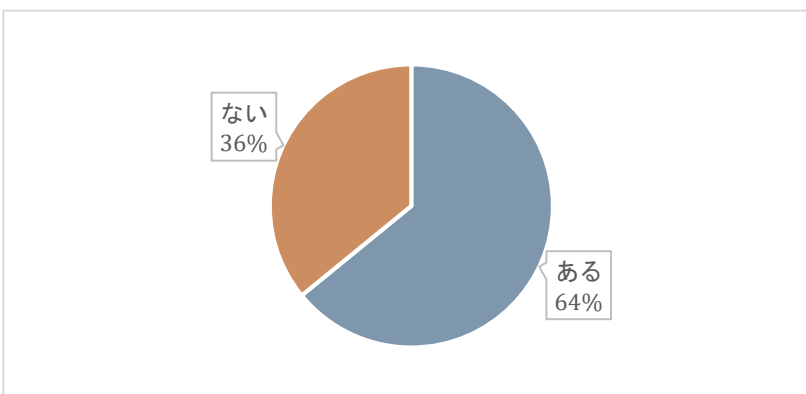
海外経験

ドイツ転職前にドイツに滞在した経験の有無



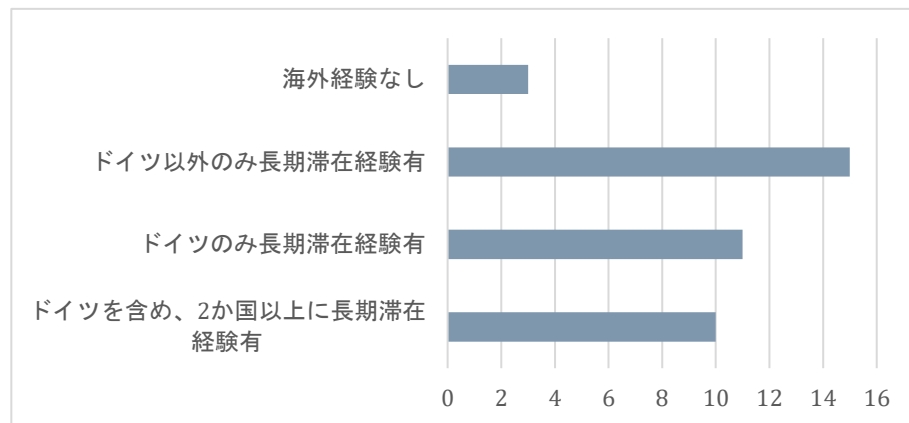
『ある』と答えた割合は全体の半数程度、**46.3%**にのぼる。『ある』の内訳のうち、ワーキングホリデーによる滞在がうち最大の26.1%を占め、次いで交換留学及び正規留学がそれぞれ21.8%、語学留学が17.4%、その他（インターン、駐在等）と続く。逆に、ドイツに転職する者の半数以上は、ドイツに長期滞在した経験が無い。

ドイツ転職前にドイツ以外の国に長期滞在した経験の有無



『ある』と答えた割合は全体の**64.1%**にのぼる。『ある』の内訳のうち、語学留学が最多を占め33.3%、次いで交換留学の22.2%、ワーホリの11.1%、その他と続く。滞在したことのある国のうち、英語圏（オーストラリア、アメリカ、イギリス等）の割合がそのうちの過半数（64.4%）を占め、英語圏以外のヨーロッパ（チェコ、イタリア等）が24%、アジア（フィリピン、中国等）が12%となった。

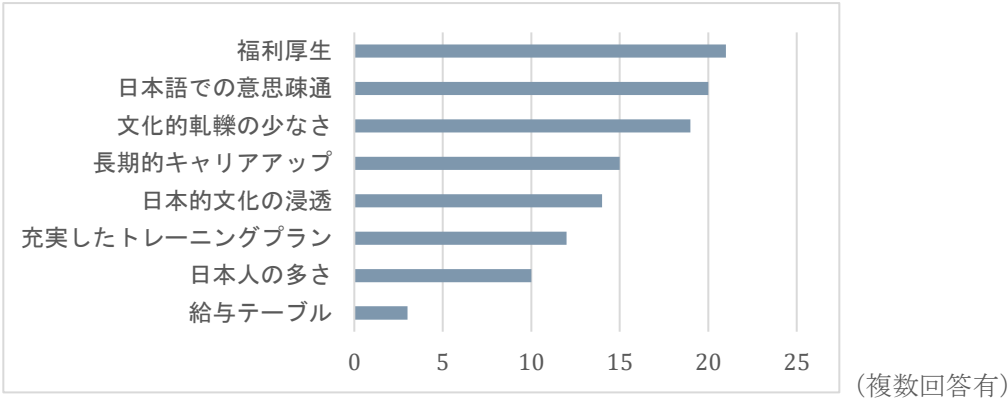
海外長期滞在経験の有無



ドイツ転職前に、ドイツも含め一切の海外長期経験のない人の割合は全体の **7.7%** に過ぎず、その他 **92.3%** は、ドイツまたは海外（あるいは両方）に長期滞在経験がある結果となった。

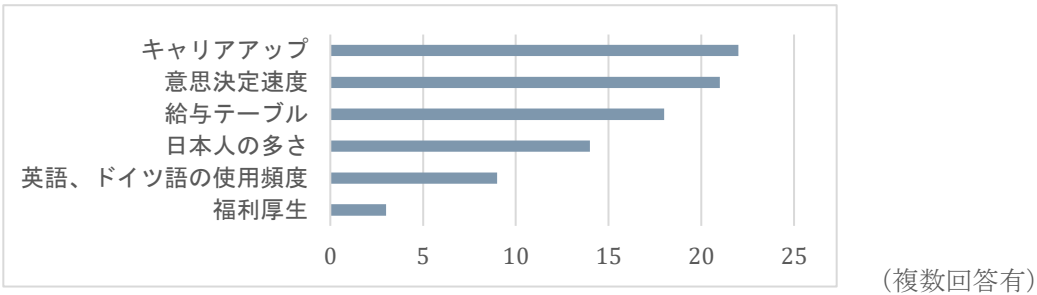
日系企業とドイツ企業の比較

日系企業で働くことのメリット



応募者の半数が、日本の会社で働くことの利点を『福利厚生』と挙げる。次いで、日系企業で働くことのメリットとして挙げられたのが『日本語での意思疎通』である。

ドイツ企業で働くことのメリット



応募者の半数が、日本の会社と比較し、ドイツの企業のメリットを『キャリアアップ』および『意思決定速度』と挙げる。日系企業とは逆に、『福利厚生』をメリットだと感じる応募者の割合は、日系企業を大きく下回る。

Company [Career Management GmbH]
Address [Tower 185, Friedrich-Ebert-Anlage 35 – 37, 60327 Frankfurt]
Website [<https://career-management.de>]

